

「令和元年度 第4回大月みらい協議会」 会 議 概 要

日 時 令和元年10月7日（月）午後7時から午後9時まで

場 所 大月短期大学 会議室

出席者 委員14名（欠席8名）

委員 小俣理美、長田弘、小林聡、佐藤總明、志村淳、志村賢二、庄司有紀、
白川恵子、白川太、中島啓介、三富聖久、矢光重敏、山口隆太郎

（※敬称略）

【市】 小林市長、上條総務部長

【事務局】 井上企画財政課長、久保井地域活性化担当リーダー、堀内、後藤

1. 小林市長あいさつ

本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして本当にありがとうございます。日頃から市政運営に対しご理解とご協力をいただきますとともに、大月みらい協議会の委員をご快諾いただき深く感謝申し上げます。

大月みらい協議会は、人口問題そして地域活性化について幅広い視野からの意見を求め対策について検討するため、平成27年1月に設立し、これまで多くの提言をいただき「大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定や効果検証に携わっていただきました。

前期は官民が一体となって、「ふるさと教育」を大きく育てようというようなあり方について、協議・実践・検証を重ねていただきました。これまでの取り組みに対して、本当に深く感謝を申し上げる次第であります。

今期は新たに9名の委員を含む、22名の委員の皆様に参加していただき3期目のスタートを切っていただきました。事務局からの報告では、「ふるさと教育」の取り組みを継続して行いながら、またさらに新たなテーマの検討を始めるということ聞いております。

人口問題及び地域活性化は行政だけでは解決することが難しい問題であり、市民・企業の皆様とともに議論を進めていくことが必要だと考えています。

私は様々な人口減少の対策を講じる中で、「出生数の減少に歯止めをかけること」に注目をしています。平成28年度には100名、平成29年度には86名、平成30年度には84名、そして今年度は、現在の出生数が35名ということになっていまして、このペースで行きますと70人台となってしまう可能性が非常に高くなってきています。

出生数が、このように減少していきますと、適正配置と呼ばれていた学校数をさらに減らすという状況にもなりかねない認識をしているところであります。そのようなことから、今後みらい協議会の皆様には現在進めている総合戦略の検証、来年度に策定予定の「第二期総合戦略」についてご意見を願います。出生数の減少に歯止めをかけるためのご意見・

アイデアを頂戴したいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りたいと存じます。

将来の大月市を明るく希望の持てる街にするよう、市民目線でのご意見を賜り、地域活性化により一層ご尽力いただきたいと思いますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。これからもよろしくお願いいたします。

2. 小俣議長あいさつ

皆様こんばんは。朝は晴れていまして秋の空かなと思いましたが、夕方になりまして職場から出てくる時には気温16度でした。家に一回戻って、長そでを着てこちらに来ました。皆さんも風邪などひかないようご注意ください。

いよいよ10月になりまして第3期が始まって半年です。それぞれこの一年の目標が、あと半年なので皆様頑張って進んでほしいと思います。それとインフルエンザも流行っておりますので、くれぐれもお体には気を付けてください。

3. 議事

(1) 令和元年度第3回会議概要について

- 会議概要を市ホームページへ掲載することについて審議を行い、市ホームページへ掲載することについて承認されました。

(2) 新テーマ提案書について

【小俣議長】

それでは次に移ります。【議題の2 新テーマ提案書】についてです。

既に事務局から事前に資料の送付があったと思いますが、小林委員と矢光委員から全部で16件の提案書が提出されました。これから提案書の内容について、提案者から発表をしていただき、その後、質疑応答を行っていきたくと思いますが、提案書の1つ1つについて、説明と質疑応答を行うと本日の2時間の会議では終わらなくなってしまう可能性があります。そこで、誠に申し訳ありませんが、皆様に資料を事前に送付して、内容をご一読していただいたことから、今日の発表では、提案者には提案内容を絞った中で、説明と質疑応答を行うこととしたいと思います。

それでは、小林委員から提案をよろしくお願いいたします。

【小林委員】

小林です。先に事務局の方とお話して提案書の一部を今回説明させていただきます。

一つ目は本協議会における「夢」の定義及び事業形態の見直し案です。みらい協議会のいろんな活動を見ていると、「夢」というのを「就労」と同じ意味で捉えている気がします。「夢」という意味はそういうことなのだろうか。例えば、ライフワークという言葉があります。それは夢ではないのか。まず協議会として、何を持って「夢」という言葉を使うのか、を再定

義した方がいいと思います。

それを明確にすることによって、市民から催し物をやりたいという要望が入ってくると思っています。その際に、その催し物がみらい協議会においてバックアップできるもの、できないもので説明しやすくなるだろうと思います。

協議会の委員の任期が2年ですが、それに伴って、事業自体も2年で一旦区切りができてしまう。それはどうなのかと思う。この協議会が果たす役割が十分に機能できないのではないか。そこを改善する方法としては、協議会の外に何らかの事業者を立てる。協議会はあくまで続く限り事業者の上に立ちブレイクとなって活動する。実際の活動は事業者任せ、任期による途切れやプロジェクトの消失という事態を避けることができると考えています。

続いて、二つ目です。

協議会の全体会議の開催が不定期であるため、直前に開催の連絡が来ても詳細がつかめない委員もいるだろうと思います。毎月何日に開催するとか、第3木曜日にするとか、決め方はいろいろあると思いますが、定期的な開催を確保した方が委員としても助かるのではないかと。ある程度の日程を決めていた方が調整しやすいだろうと思います。もちろん例外が発生する場合は有り得ると思うが、原則を決めておいた方がよいと思います。

続いて、三つ目です。

児童・生徒の学びに関するイベントのコーディネートと開催です。前期で「夢塾」のグループが生徒を決めて指導しようという案を出したと聞いています。市の教育委員会から公平ではないとの理由で頓挫したと理解しております。そういうことであれば、方向を変えてみたらどうか。協議会またはグループで行うのは、博物館であるとか音楽鑑賞会であるとかスポーツ観戦であるとか何でもよいが、そこへの引率をすれば、市の教育委員会も「NO」とは言えないのではないかと。それは、児童生徒の学習に役立つことですし、特定の個人を対象としたものでもない。全体の児童生徒が観ることができ、それに対して、児童生徒がどう反応し興味を抱けるかは、本人次第であります。この方法を検討することを提案します。ただし、家庭の事情で、交通費や入館料が払えなくて参加できない児童生徒がいるかも知れない。そういった場合には市から積極的な援助をお願いしたい。これが、児童生徒の夢を途切れさせないことにつながるし、視野を広げさせることにもつながるのではないかと。思います。

以上で終わります。

【矢光委員】

それでは説明させていただきます。

「大月市の全ての児童生徒を対象に、地域との連携を図りつつ、課外活動を通じて、自然、科学、文化、芸術等の様々な分野での興味を喚起させることを、学童クラブから発信していくことを目的に活動する。」というテーマになっています。このテーマのポイントは3つです。地域連携、さまざまな分野の興味を喚起させる、学童クラブから発信する、の3つです。特に重要なのは、「さまざまな分野の興味を喚起させる」の項目です。

今、私は暫定グループ C の学童クラブに属しています。生徒児童に対していろんな事を経験させ、その中から自分の興味を持ったことを伸ばしていくことをできればいいと思っています。

地域連携を図るということになれば、フィールドワークを行いながら、その地域の特性を勉強させることで、その地域の方々が持っている知恵を伝えることができると考えます。

それから「創作活動」「実験等による科学分野の体験」をさせることによって、さまざまな興味を喚起させる。小林委員の提案に若干関連することがありますが、児童生徒の一人一人がどういう興味を持つかというのをしっかり見定め、興味を伸ばしていく。

私の経験から話をしますと、私は蔵書をたくさん持っています。そのうちの3分の1は歴史関係の蔵書です。きっかけは、「逆鱗に触れる」という言葉です。皆さんは、この「逆鱗に触れる」という言葉を知っているでしょうか。この「逆鱗」って何だろうという興味からでした。調べた結果、龍の首のところに逆さに生えている柔らかい鱗があり、龍は優しい動物ですが、ここに触ると食い殺されるということで、「逆鱗に触れる」となったそうです。秦の始皇帝の時代の本に載っている言葉ですけども、そういう一つのきっかけでいろんな歴史の本を読み知識を広げました。

科学の実験も面白いものだと思います。子供に実験を体験させると、目の輝きが普段と違います。例えば、教育テレビの「ピタゴラスイッチ」という番組を知っていますか。大人が観ても面白いです。そういうことを体験させることによって、子どもたちに興味を喚起させることができる。その興味から色んなことを学ぶことで子供たちの育成ができると思います。

あと、小林委員の提案にあったように、C グループでは県立美術館などを訪ねながら、興味を与える方法を検討しているところです。それから、地域の方々にも力を借りながら、いろんなことをやっています。その結果、今度、鳥沢小学校で読み聞かせを行うのですが、学童でやっていた読み聞かせを鳥沢小の先生が知り、学校全体でやっていただけないかという話が持ち上がっています。学童クラブから発信し全体を巻き込んで活動にしていきたいと思っています。

ただし、地域の協力者との連携をどうするかが、一つ大きな課題であると思います。

以上です。

【小俣議長】

次に移ります。『新テーマの検討会』の進め方について、山口副議長から説明をしていたきたいと思います。山口副議長、よろしくお願いします。

【山口副議長】

山口です。先ほど小林委員と矢光委員に新テーマの提案をしていただきましたが、新しいテーマを具体的にどう詰めていくかについて、小俣議長と相談をさせてもらいながら、私の考えを申し上げたいと思います。

新しいテーマの検討会を通して、提出していただいた16件の提案書について、全てを検討会で議論することは時間的に考え現実的ではないので、新テーマ検討会のテーブルに挙げる提案をいくつか絞り、詰めたうえで、新しい取り組みについてスタートさせようと考えています。来年の年明けに、検討会から全体会に提案させていただくという流れに

したいです。最終的には新テーマを、1個あるいは2個に絞っていききたいと思います。

そこで、検討会で何を検討するのかについては、委員の皆さんから、「これは新テーマとして検討すべきだ」というものを推薦していただきたいと思っております。なお、委員の皆様からテーマを推薦するに当たっては、条件を付けさせていただきたいと考えています。テーマの推薦をされる場合は、新テーマが実際に取り組むとなった時には、このグループに参加することを見据えた中で推薦していただきたい。少なくとも推薦をされた場合は、新しいテーマの検討会にご参加いただくこととしたいと思います。つまり、「このテーマは面白そうだから、他の人に検討してもらおう」のではなく、「自分も参加する」と見据えた上で、ご推薦をお願いしたい。

推薦は今月の何日かで区切りをつけ提出していただくことになると思いますが、委員の皆さんからの推薦が3名以上からあったテーマを検討会のテーブルに挙げていくということをイメージしております。

検討会が開かれる際は、私もできる限り同席をさせていただければと思います。進め方のイメージについては、表にしました。先ほど、事務局の方からご説明がありましたけども、お手元に資料として配付いたしましたのでご覧ください。

「3名以上の推薦」について考えを述べさせていただきますと、議長と相談をさせていただく中で、昨年度の大月みらい協議会の取り組みは、メンバーが少ないグループでも最低3名の委員で構成されていきました。個人ではなくグループとして取り組むという観点から、2名だと1人が欠席したら残り1名になってしまうので、最低でも3名がいいのではないかと考えました。

また、将来的に新しいグループとして取り組まれることを想定する中で、内容は良い提案であっても、それをグループとしての取り組みに繋げていかなければ意味がなく、それを実行するメンバーが必要であることから、「3名以上の推薦」という条件を付けることを考えました。

検討会を含めて、新しいグループに参加したいと思った場合、現在加入しているグループとの兼ね合いについても説明いたします。

委員の皆様には、全員暫定のグループのいずれかに所属していただいております。新テーマ検討会の参加に当たっては、「掛け持ち」をしていただいても構いませんし、暫定グループを離れ、新テーマ検討会に移っていただいても構いません。暫定でございますので、スケジュールで定めた年内中であれば、移動は自由です。ただし、1月以降の暫定が外れたグループが本格的に稼働する際には、いずれかのグループに所属するか、複数のグループに所属するか掛け持ちしていただいても問題ございません。

【小侯議長】

ありがとうございました。新テーマ検討会については、以上のような形で進めていきたいと思っておりますが、ご理解いただけますでしょうか。

暫定グループには新任の方に入ってくださいましたが、もし違うことをやりたいという

ことであれば、違うグループを作るという約束をしてありました。そのお話でした。

それでは、ご理解していただけるようであれば、今年度はこのような流れで進めていきたいと思っております。それでは、お手元にある別紙推薦書について、お手数をお掛けしますが、全員ご記入のうえ、10月16日（水）までに、事務局へ提出をお願いします。

期限を決めているのですが、12月までにはある程度の目途を立てたいと思っております。申し訳ありませんが、10月16日までにご提出をお願いします。

（3）暫定グループ会議

【小俣議長】

次に移ります。「議題の3 暫定グループ会議」についてです。

暫定グループ会議は、この会議室の時計で、午後8時30分までとします。

なお、時間になりましたら、3つのグループリーダーより、会議の内容の発表をお願いいたします。それでは会議を始めてください。

●小林市長、上條総務部長は所用のため退出しました。

●その後、「職場体験」、「学童クラブ」、「情報発信」の3つの暫定グループに分かれて、会議が行われました。

●会議終了後、暫定グループリーダーより、会議の内容について発表を行いました。

< Aグループ（職場体験事業） >

【白川太委員】

Aグループのここまでの取り組みと、これからの流れを発表します。例年と同じで、大月東中学校に対して、まず「みらい夢カード」を8月26日に提出しました。その後、10月25日に「職業講話」を7事業所の方が行います。それから、10月29日と30日に「職場体験」を実施します。

その中で、我々が一番やらなければいけないことは、「みらい夢カード」を作ってくれる事業所を増やすことです。昨年一年間の中で学校・生徒・父兄の皆様に応援して下さる声をいただきましたので、なんとかこれを2年目以降に企業数も増やしてもっと活性化させたいということで進んでおります。

Aグループのメンバーが声掛けを行い、企業数も「夢カード」も実際には少し増えてきています。しかし、それではまだまだ足りたいと思っております。この声掛けは継続していきたいと考えています。ここにいる委員の皆様は、Aグループで実施していることを理解してくださっているので説明は楽なのですが、ここに参加していない方・企業に対して声を掛けますと、相手が身構えられるということがあり、非常に難しく、しがらみみたいなものが入ってきてしまうことがあります。まずは、我々の活動を認知してもらうことが

必要だと考えています。そこで、事務局でやっていっていただいたことが、市の定例記者発表で活動を発表していただきました。うまくすれば、どこかのメディアが取り上げてくれるのではないかと思います。

その他に、Aグループでアクションを起こしたのが、「大月市商工会」の方をお願いをして理事会にて賛同する企業を増やしたいという発信を試みようとなっております。

その他には、皆様へのお願いになるのですが、お知り合いの企業があれば、ご紹介いただければ我々の方で出向きまして説明をしたいと思っております。また、企業を増やすための知恵だとかあれば、申し込めば検討していきたいと考えています。

それから、これもお願いなのですが、Dグループの取組みが「情報発信」ということですので、我々がやっている活動を広められるようなアクションを考えていただけるのであれば嬉しいなと思っております。何社か賛同してくれるようお願いにも関わらず、企業側から「何をしに来たの?」と言われてしまう。ただそれがもし、「大月でこんな活動があるんだ」と知ったうえで説明すると、もう少し企業の聞き方とかが変わってくるのではないかと思います。こういった情報の発信をお願いしたいなと思っております。

以上です。

< Cグループ（学童クラブ事業） >

【矢光委員】

暫定Cグループの報告をさせていただきます。

まず、われわれは大月市にあります学童クラブのすべての先生とヒアリングを行い、その学童クラブの状況がどうなっているかを確認しました。また、Cグループの活動で学童クラブにお手伝いできることがあればということで打合せを行いました。

その結果、9月30日（月）に学童クラブ「なのはな」におきまして、地域の方の協力を得まして、通学路を通過して、コスモスと百日草の咲いている畑まで子供たちを連れて行きました。その畑を管理している葛野地区の方の協力を得て、種を取ったり花束を作って持ち帰らせたりしました。採った種を乾燥させ、来年また蒔き花を咲かせようということを行いました。

この後に、企画中のものがあります。それは白川委員の方からお願いします。

【白川恵子委員】

では、今後についての説明をさせていただきます。

猿橋小学校の学童クラブ「ひまわりⅠ・Ⅱ」についてです。ひまわりⅠ・Ⅱの間に畑があり、その法面のところを花畑にしたらどうかという意見が出ており、その準備を進めています。その法面にポピーとその他もう一種類を植えたらどうかということで、下草狩りは済んでおり、種まきを10月28日と30日にそれぞれ人数を分け行う予定です。花の種は、先ほど説明のあった葛野の方をお願いをして若干分けていただけるということです。足りない種については、買う予定となっております。

それから、鳥沢小でやった読み聞かせについて、かなり好評だったということで、私が中心になって、子育て広場をやっておりますので、そこの仲間に声をかけたり、保育士を辞めた方を中心に人を集めて「読み聞かせ」の準備を進めています。

12月23日・24日のクリスマスイベントについても考えております。こちらも、先生方の要望が強く、猿橋中学校に声をかけて、休みなので何人の生徒さんが来ることができるかわからないが合唱部をお願いしております。猿橋中学校の校長先生に話をしたところ、「地域に関わることなので」ということなので、5人から10人の間で生徒たちが来てくれるのではないかと考えております。ただ、バス通学の生徒さん達ですので、そのバスがなくなってしまった後の対応もみらい協議会の方で考えていかなければならないというところがありますが、そちらもクリアしていきたいです。サンタクロースにもぜひなってほしいという要望もあります。

それから大月東小の「やえざくら」ですが、人数がすごく多いのでⅠ・Ⅱそれぞれ別々に対応しなければならず、今考えていることは、市役所と消防署の見学を考えています。今日来ていただいた小林市長さんとお話だとかを含めて、内諾をいただいております。最終的には8日に詰めていきます。実施日は11月5日と20日になっております。消防署までの道はかなり危険もありますので、実際に現地を見て危険な所はどこか確認したいと考えております。地域の方のご協力も10人くらいいないとかなり厳しくなってしまうので、皆さんにも地域にどんな方がいるか教えていただければと思います。

また、前回ご報告をしたかと思いますが、10月17日は鳥沢小学校の方で読み聞かせを行うとなっておりますが、明日最終的な詰めを行うこととしております。

以上です。

【志村淳委員】

補足をさせていただきます。

大月東小の学童の活動の市役所と消防署で行うものについて、役所の方で水面下で計画を進めてくれていますが、ご苦勞をかけております。そこでできましたら、小侯議長から市長さんをお願いのご挨拶をしていただければ事業として取り組みやすいと思います。よろしく申し上げます。

<Dグループ（情報発信事業）>

【中島啓介委員】

中島です。よろしくお願いたします。

Dグループの情報発信の進捗状況です。昨年度から引き続き行う「大月仕事人」ですが、作業を進めておまして、広報の2月号に掲載予定で掲載させていただける方に依頼をし、了承をいただきました。ですので、2月号に記事とする準備を進めているところです。

続けて、3月号にどなたを掲載するかなどを調整しています。あと、Aグループの白川委員の方からお話があったのですけれども、広報に関する「大月仕事人」だけでなく、情

報発信ですからグループごとで行っている活動を広く発信したいと思っています。Aグループの活動であったり、賛同してくれる企業を求めているのであれば、そういう受け皿にもDグループの中でできればいいなと思っています。ただ、ちょっと難しい問題がありまして、写真を撮り掲載ということが基本だと思うのですが、小学生とか中学生を対象にした写真の取り扱いが難しいというのがネックです。バックショットで個人が特定されない写真だったら大丈夫だろうと思っていたのですが、児童生徒が少しでも写っていれば保護者の承諾を得なければならないみたいです。それは学校側の方針だそうです。このようなことがあるようで、写真の取り扱いがかなり難しいです。なので、皆さんが活動しているところを切り取り掲載することも可能ですが、その場の雰囲気等を考えると、教室全体を撮りたいとなりますが、それだとハードルが高くなってしまいます。ただ、そういう問題をクリアし、すり合わせをしながらAグループの活動やCグループの学童の取組みを発信できればいいなと思っています。

以上です。

(4) その他

- 次回会議の日程は、10月下旬から11月上旬頃を目途に議長、副議長と日程調整をさせていただき、委員の皆様にはメール及び郵送にて次回のご案内することとなりました。